

# 道路計画にも疑問の声

発開 沢北 下

都計審 世田谷区に再考要望

小田急線の地下化に伴い下北沢（世田谷区）の商店街の一部に大規模道路などが計画されている問題で、区が今年度内の策定を目指す下北沢駅周辺の独自建築ルール「地区計画」を審議する区都市計画審議会（会長・東郷尚武東京市政調査会理事）が二十三日、開かれた。区は地区計画の原案を説明したが、委員からは区の道路計画や議論の進め方に疑問の声が相次いだ。

を計画。合わせて、地元商店街役員らによる「街づくり懇談会」と協議しながら建物の容積率緩和と高さ制限を盛り込んだ「地区計画」の策定も進めている。

具体的な代替案が出たことを受け、地区計画だけでなく道路計画についても疑問の声が続出。「懇談会」での議論を尊重し、計画を進めるべきだ」（区議の委員）との意見も出た一方、学識経験者の委員を中心に「懇談会」以外の人間も議論に加えるべきだ」など、区に計画の再考を求める声も相次いだ。

区は渋滞緩和や防災対策などを理由に、下北沢駅北側に幅最大二十六メートルの道路と駅前広場の建設

区の動きに対し、市民グループなどは「路地の多い下北沢らしい町並みが失われる」と反発。地元建築家らによる「下北沢フォーラム」（代表・小林正美明大教授）は道路計画を縮小した代替案を発表し、今月には話し合いの場を求める要望書を熊本哲之区長あてに提出した。

区は「市民グループの意見は聞いている」など計画の正当性を主張したが、都計審の東郷会長は「区は委員の意見を検討してほしい」と要望した。

この日の都計審では、